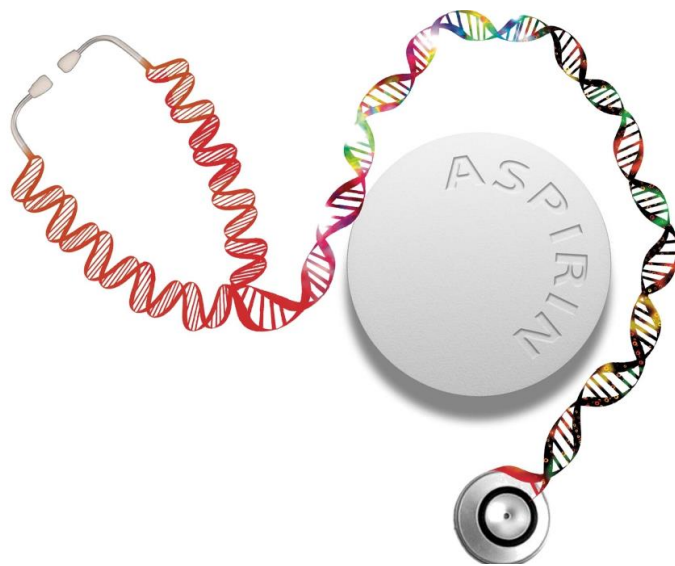


# アスピリン服用による大腸がん リスク低下と大腸内視鏡

Harvard T. H. Chan School of Public Health の Cao らは、アスピリンの定期的服用と発がんとの関連を調査した結果 (n=135,965)、アスピリンの長期服用は大腸がんを減少させることが明らかとなり、JAMA Oncology 誌に掲載しました。



最長 32 年の追跡で、アスピリンの常用は全がん発症をわずかに低下させ（相対リスク 0.97）、消化器がん（0.85）、特に大腸がん（0.81）のリスクを低下させました。



消化器がんでのベネフィットは、週 0.5-1.5 錠、服用期間 6 年以上で現れました。



USPSTF は、特定の心疾患リスクを有する成人に対し、平均リスク者では初のがん予防薬として低用量アスピリン服用を推奨しています。



低用量アスピリン服用と大腸内視鏡検査による、さらなる大腸がんリスクの低下が可能になると考えられます。

